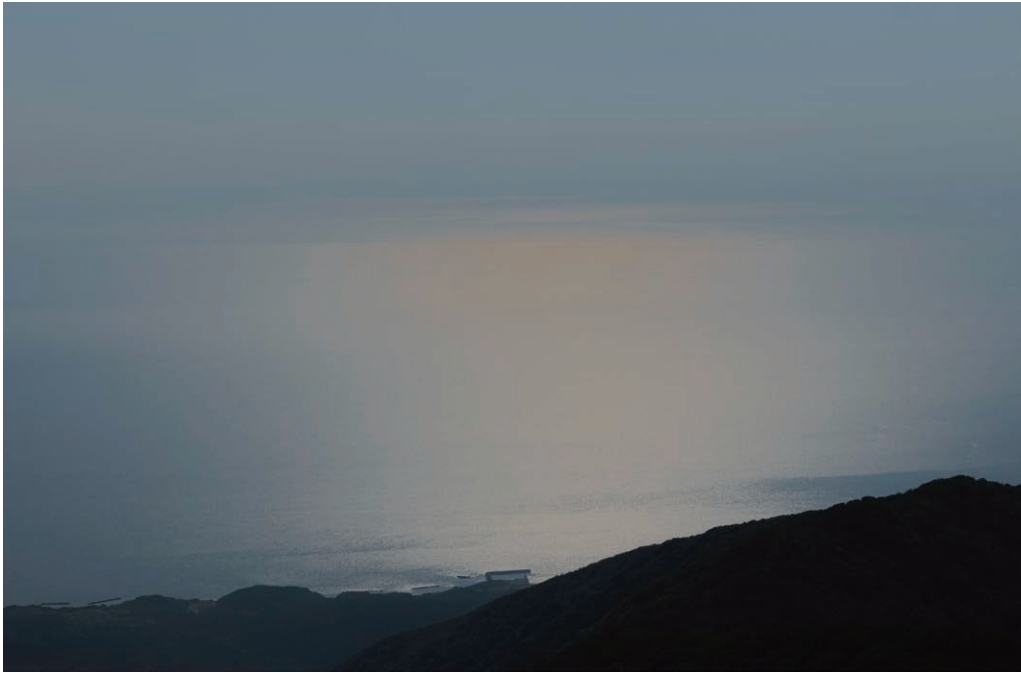


希望の光



撮影地・世界遺産「白神山地」8合目付近

加藤 友一 (写真部部長)



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石 隆子

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年は寅年。十二支の3番目で、時刻で表せば、午前4時前後の約2時間と言われます。まさに夜明け目前の時間帯。新型コロナウイルス感染症の収束、そうです、コロナ明けを期待したく

写真、工芸の二つの公募展も、今後課題を残したものの、2年目という難しい局面で一定の成果を挙げ得たように思います。
明年、本協会は設立から60年の節目を迎えます。還暦、まさに新たな時代の幕開け

思います。米中対立の構図が世界を二分する状況で、改めて世界平和を祈った年の初めでもございました。

60年の地歩固め 総力上げて

宮城県芸術協会理事長
雫石 隆子



本年度、県芸術祭の開幕が7月に早まり、組織の瞬発力が試されます。東北・北海道芸術文化団体協議会の幹事業務に、宮城県が手掛ける諸事業への協力が控え、役員改選時期も迫ります。

宮城県芸術協会は、2年続きのコロナ禍の中の開催でした。混沌の時にこそ芸術の力を！との信念を貫き、「できることをする」柔軟な構えで取り組み、緊急事態宣言発令の難局を際どくかわし

す。慌ただしい1年は、転換期への胎動にも映ります。

昨年、予定通りに開幕。ガラコンサート、音楽会の2年ぶりの復活、展示部門の出品数の増加、東日本大震災10年の特別企画等、「芸協ここにあり」の心意気を示すことができました。

光。新しい革袋への移行も円滑に、さあ、トラの勢いに倣い芸術の持つ力を信じて、日々の活動にまい進してまいります。

河北新報社との連携事業、

レベル向上、今後に手応え 第2回杜のみやこ工芸展／全国公募も東北浸透課題

当協会と河北新報社が連携、企画した全国公募展、第2回杜のみやこ工芸展が、第58回宮城県芸術祭工芸展と一緒に、10月28日～11月1日の日程で、仙台市宮城野区のTFUギャラリーミニモリを会場に開かれた。応募者、応募点数こそ昨年を幾分、下回ったものの、参加者が海外にまで広がり、作品個々のレベルが向上。若者の活躍も目立ち、次世代育成と催事の今後の発展・充実に期待を抱かせた。

応募者は168名、応募作品数は202点で、昨年の201名、230点を下回った。種別

は陶磁66点、染織40点、漆・金工・木竹・人形・七宝・革・紙・硯・硝子・布絵・その他合わせて96点で、陶磁、染織が減少し、硝子などが増えた。

地域別にみると、宮城県が122名で7割強を占め、他県・国外が46名。地元及び東北5県が減少した半面、東北以外の応募者が倍増。茨城、埼玉、東京、神奈川、石川、静岡、愛知、三重、福岡、鹿児島にまで拡大した。海外(台湾)から初めて出品があり、外国籍と思われる応募者もいた。「全国公募」らしさが増し、今後に手応えを感じた。

若者の活躍も今回の特徴。新人賞の対象となる30歳以下の応募者が7名に上り、出来栄も十分。新人賞の2名とは別に、20代、30代の上位入賞者が2名おり、「工芸の未来に、種を蒔く。」のキャッチコピーが一定程度、現実化した格好だ。

審査員を務めた漆芸の杏澤則雄氏(日展会員、現代工芸美術家協会理事)は「バラエティーに富み、完成度の高い作品が多かった。中央展にも見劣りしない」と指摘。「東北5県への浸透」を期待した。外館和子氏(工芸評論家、多摩美術大学教授)も「大規模公募展が重なった年にしては出品数もまずまずで、レベルも上がったように思う」と評価し、「リピーターの確保」を公募展

の維持・発展への課題に挙げた。公募展は昨年同様、新型コロナウイルスへの感染防止を徹底し、運営日程に余裕を持たせた。表彰式を簡素化、受賞者との作品懇話会形式とし、審査員(外館氏担当)による講評中心の内容で実施した。

同展は伝統の「河北工芸展」の発展形に位置付けて、芸術団体とメディアが全面協力し、昨年、初開催。今後の占う意味で第2回展が注目されていた。

作品に生け花実演 創作活動に新たな刺激 応募者向け研修会実施

杜のみやこ工芸展の関連事業、応募者向け研修会が10月31

日、ミニモリ2階未来の杜で開催された。今後の創作活動に生かしてもらおうと初めて企画。会員中心に30名が参加した。講師は華道部の3名が担当。「華道×工芸」のおはなしのタイトルで、昨年度の受賞作品などにライブで花を生ける「華道家が創る」杜のみやこ工芸展を活けると、本年度の応募作品を批評する「華道家が見る」の二つの話で構成。総合司会の西村一観執行理事(清泉古流)と、作品を手掛けた佐藤華華部長(道風流)、手塚菖園副部长(龍生派)、サポート役の三浦景舟前部長(同)が、華道家目線で工芸作品を掘り下げた。

関連がありながら、ふだん意識することのない異なる芸術分野の専門家による率直な指摘。「目からうろこ」の解説にうなずきながら熱心に聞いた。



最高賞受賞作品

【杜のみやこ工芸展】

最高賞、杜のみやこ工芸展大賞受賞作品(陶磁)。作品名は「心」。審査員から激賞された。



会場風景

入場者数は第1回展を上回った。多種多様、作品の質の向上が目を見張った。(4面に受賞者名簿)



最高賞受賞作品

【芸術祭工芸展】

最高賞、宮城県芸術祭受賞作品(七宝)。作品名は「六花の朝」。技術の高さが目を引いた。役員の部17点、会員の部44点を展示。企画展示の小品コーナー



会場風景

ナーも開設した。宝塚市手工芸協会との交流展示も実現、革工芸、刺繍、人形の3作品が彩りを添えた。



杜のみやこ工芸展研修会

努力に大輪、70名に栄誉 芸術祭表彰式 茶話会で祝意

第58回宮城県芸術祭表彰式が11月25日、ホテルメトロポリタン仙台で行われた。各分野で優秀な成績を収めた会員70名と、各部門で長年の功績が認められた13名が表彰された。新型コロナウイルス禍の下、今年も規模を縮小しての開催となったが、新たに茶話会形式を取り入れるなど、精いっぱい趣向で受賞者の栄誉をたたえた。

表彰式は例年と同時期の開催。コロナ禍を気にしつつ、2年ぶりにホテルを会場に実施した。ただ、平時には戻り切れず、祝宴を取りやめ、表彰式のみとした。参加規模も受賞者や功績者のほか、協会及び共催、賞交付団体代表者らに限定し、出席者は約120名に抑えた。



新趣向で栄誉たたえた表彰式

第58回宮城県芸術祭来場者数 (人)

事業名	入場者数	事業名	入場者数
閉会式	中止	絵画展(会員展)	5,300
華道展	1,650	音楽コンクール ガラコンサート	323
書道展	2,780	文学散歩	21
写真展・フォトサミット in Sendai 2021	1,831	文芸祭	63
絵画展(公募の部)	1,586	工芸展	1,928
彫刻展・ 彫刻公募展	1,586	長唄演奏会	中止
		音楽会	428
		表彰式	119

併催事業 参加事業

事業名	入場者数	事業名	入場者数
第2回杜の みやこ工芸展	1,928	歳末たすけ合い第 58回各流舞踊大会	852

芸術祭会長で当協会の雫石隆子理事長が冒頭のあいさつで、コロナ下における芸術祭の実績を報告しつつ、改めてその意義を強調。共催団体の支援に謝意を示すとともに、困難を克服し成果を挙げた受賞者に心よりの祝意を述べた。

名誉会長の村井嘉浩宮城県知事(佐々木均県環境生活部副部長代読)も、受賞者の努力をたたえ、目配りを尽くしながら、地域の芸術文化の振興に向けて、芸術祭を開催した当協会への取り組みに感謝の意を述べた。

賞状、副賞(記念品)の授与は、全面的に昨年の方式を踏襲。各賞の代表者1人が壇上に上がり、賞を交付する代表者らから賞状を受け取った。各賞の授与に続いて、協会の発展に貢献した功績者を表彰した。

この後、茶話会を設定。受賞

返ってきた心地よい響き
2年ぶり、芸術祭音楽会

第58回宮城県芸術祭音楽会が11月12日、日立システムズホール仙台・コンサートホールで開催された。今回は新型コロナウイルス感染拡大で、見送られており、開催は2年ぶり。ファン約430名が、心地よい音楽の調べを満喫した。

テーマは「古典派とロマン派の音楽」。モーツァルト、シヨ

者らが会話を交わすなど、できる範囲で華やかさを演出した。続いて、令和3年度地域文化功労者表彰の2名(5面に関連記事)について、文部科学大臣に代わり、県の佐々木副部長が賞状を伝達。併せて、文化の日表彰・教育文化功労の3名を紹介し、計5名に記念品を贈り、晴れの表彰を締めくくった。

功績者表彰

◇功績者表彰を受けられた方々(敬称略)【華道部】波間紫苑・雪江柳華(池坊)【洋楽部】斎藤功一、渡部ジュディス【茶道部】唐澤宗淳・溝江宗江(表千家)、篠原宗由(裏千家)、加藤清梢・佐藤和祥・関口静香・田中松陽・丹野若彩(煎茶道三彩流)、高平宗悦(宗徧流)



2年ぶりの開催で盛り上がりを見せた

パン、ヴェルディ、シューベルト、リスト、プッチーニなどのなじみのある名曲を取り上げた。

ピアノ独奏・連弾、三重奏から声楽との組み合わせまで、多彩なプログラムを用意。音楽の楽しさ、豊かさを味わえる奥行きのある構成で、14名の洋楽部会員等が、磨いたテクニックと確かな音楽的センスをより合わせた芳醇な音色を響かせた。

演奏家として、指導者として一線で活躍する音楽家の名演奏に、入場者らは満ち足りたひとときを過ごした。

2部構成で芸術祭・文芸祭 震災10年、講演を特別企画

第58回宮城県芸術祭の一環、文芸祭が10月23日、東京エレクトロンホール宮城の会議室で開催された。第1部講演、第2部文芸受賞者の感懐と受賞作品朗



関心を呼んだ平川氏の講演

読の2部構成。講演は、東日本大震災から10年の節目に当たり、関連の企画をということで特別に組み込んだ。

講師は、初代の東北大災害科学国際研究所所長で同大名誉教授の平川新氏。「災厄と共にある人間の歴史」の演題で、「自然災害」「疾病と祈り」など章立てにまとめたレジュメと写真の映像を流しながら話しを進めた。会員ら約60名は、分かりやすく知識、情報を詰め込んだ興味深い内容に耳を傾けた。

講演は予定を超える約80分。参加者からは「勉強になった。多くの会員が聞く機会を得られれば」との声が聞かれた。

感懐と朗読では詩、短歌、俳句、川柳の4部門(散文・小説は該当者なし)の文芸受賞者が登壇。受賞に謝意を表しつつ、受賞作品の解説を交え、感激の面持ちで朗読した。

宮城県芸術祭、7月開幕へ

令和4年度、部長会議で前倒し了承

令和4年度、第59回宮城県芸術祭の開催時期について、従来
の9月下旬から7月上旬へ、2
カ月半も前倒しとなること
が、部長会議で確認、了承された。

日本画、洋画、役員。事業計
画の策定、要項の作成、広報活
動等の迅速化が避けられず、出
品作品の制作も急ぐ必要があ
る。公募の呼び掛けも当然、早
まる。

作品の制作をはじめ、諸準備が
早まることになる。展示会場の
せんだいメディアテークの大規
模改修工事が8月に始まること
に伴う措置。年度明けの共催8
団体による県芸術祭委員会
式に決まる。

図らずも仙台市内における規
模、質の整う展示施設の脆弱さ
が露わになった形だが、早めの
立ち上がりとなつた形だが、短
期、窮屈な日程を乗り切りたい。
部長会議は2回とも、新型コ
ロナウイルス感染防止の徹底を
期すため、部長1人(代理を含
む)の出席で実施した。第2回
会議では、執行部が第58回芸術
祭の進捗報告や、次年度の芸術
祭の方針についての説明、さら
に各部が課題を交えて実績を報
告。今後の対応に関する連絡事
項にも言及した。第3回会議で
は前回の事業計画・予算・役員
推薦の日程説明を踏まえて、執
行部が事業計画と予算編成の方
針を示し、各部にその策定と役
員(理事・監事)改選に伴う理
事推薦候補の選出を依頼した。

開催日程の大幅な繰り上げに
ついては、これまでもその方向
を説明。12月6日の第2回部長
会議で、固まった具体の開催日
程案を提示し、持ち帰って各部
内での協議を求めた後、改めて
年明けの1月17日の第3回会議
で承認された。

事実上、確定した開催日程
は、第Ⅰ期が7月7～13日で書
道、華道、第Ⅱ期が7月14～20
日で絵画(公募の部)、彫刻(会
員・公募)、写真(会員・フォ
トサミット2022)、第Ⅲ期
が7月21～27日で絵画(会員・

第58回宮城県芸術祭工芸展受賞者(会員の部)

賞	作品名	氏名
宮城県芸術祭賞	六花の朝(七宝)	松本幸恵(仙台市)
宮城県知事賞	「秋めく」(染織)	遠藤喜代江(名取市)
河北新報社賞	呉須布染組鉢(陶磁)	伊藤仁美(仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	音波・Acoustic wave(ガラス)	村山耕二(仙台市)
宮城県教育委員会教育長特別賞	菊花の盆(木竹芸)	會田智恵(仙台市)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	深海(陶磁)	大沼明子(仙台市)
宮地房江賞	紬着物「秋の暮」(染織)	横田美和(仙台市)

第2回杜のみやこ工芸展 受賞者

賞	作品名	氏名
杜のみやこ工芸展大賞	心(陶磁)	大沼明子(仙台市)
河北新報社賞	乾漆合子鳥の猫(漆)	杉山智一(大和町)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	フュージングランプ(スタンドグラス)青の想い(硝子)	安藤吉姫(仙台市)
JAL賞	次元(漆)	張森洋(台湾・台中市)
宮城県知事賞	和紙糸柿染八寸帯「秋日影」(染織)	横田美和(仙台市)
青森県知事賞	彩泥象嵌紋鉢(陶磁)	羽鳥恵子(神奈川県・横浜市)
岩手県知事賞	野あざみ蒔絵・棗(漆)	渋谷裕子(岩手・盛岡市)
秋田県知事賞	北欧の抒情(木竹)	倉橋正伸(秋田・大仙市)
山形県知事賞	ふわ(染織)	安達江梨(仙台市)
福島県知事賞	家族(人形)	大澤ひろ子(仙台市)
仙台市長賞	みみずく(染織)	佐々木泰子(仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	本金粒入り黒揚羽(七宝)	槻館直子(仙台市)
仙台市教育委員会賞	あんどん(山ぶどうによる)(木竹)	宮坂みよ子(東京・新宿区)
公益財団法人仙台市市民文化事業団賞	パラレルワールド(染織)	戸田千晶(愛知・稲沢市)
東北福祉大学賞	飴釉掛分匏大皿(陶磁)	太田義八(福岡・東峰村)
NHK仙台放送局長賞	誕生(陶磁)	住田美恵子(利府町)
東北放送賞	爽秋(陶磁)	只野和子(利府町)
東北電力賞	とをあまりひとつ(染織)	田中美香子(仙台市)
新人賞	小人たち(陶磁)	糸田萌衣(静岡・掛川市)
新人賞	双つのとき(陶磁)	平野嵩真(仙台市)

事業計画及び予算編成の方針決議
役員補充に関する改正案等も協議

第3回理事会

第3回理事会が12月13日、会議室で開かれた。理事12人が出席。定款に従い栗石隆子理事長が議長となり、議事を進行した。

今回は第58回宮城県芸術祭の進捗など報告4件と、令和4年度事業計画及び予算編成の方針、理事候補者数の各部配分、賛助会員の推薦の議案3件。

第1号議案は、創設60周年を目前に、積み重ねの意義を強く意識した事業計画や記念事業を

念頭に置いた財政運営の強化を打ち出したのが特徴。会員、部、協会、そして社会の「四方よし」を目指す公益性重視の理念も掲げた。第2号議案の理事候補者数は、従来の枠組みを維持。賛助会員は団体、個人各1件。全て原案通り、承認された。

その他は2件。役員補充に関する規程の改正について、考え方を説明した。この日の指摘を受けて、骨子案の文言を一部修正。次回、改めて審議、議決を得る方向だ。事務所の維持管理に関し、経費の負担増が避けられない現状の報告もあった。

年の瀬、秀作を鑑賞

芸術祭受賞者作品展

第58回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が12月14〜20日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。当協会と宮城県民会館管理運営共同企業体（公益財団法人宮城県文化振興財団・東北共立・陽光ビルサービス）の主催で、絵画展（会員対象）と、絵画展公募の部の受賞者が受賞作と最新作を1点ずつ出品するこの時期恒例の企画。会員21人、公募の部10人の秀作、計61作品（公募の1人、



受賞作と新作を見比べる入場者ら

新作のみ出品）が会場を飾った。絵画展で高く評価された作品と、受賞者の近作を同時に鑑賞できる贅沢な趣向。新作は受賞作に比べて小ぶりなものが多

く、二つの作品の対比が見どころの一つだ。風景画、人物画、静物画に、抽象画などもあり、バラエティーが豊か。連続性や類似性のある作品に交り、題材を大きく変えたものもあり、作者個々の制作意図を読み取りつつの鑑賞は楽しい。

年の瀬の慌ただしさをしばし忘れる絵画の芸術空間。初冬の定番になっている。芸術祭とは異なる落ち着いた静寂の雰囲気の中、入場者らは作品とタイトルを見比べながら、1点、1点、じっくり鑑賞し、秀作のオンパレードにまどろんでいた。

地域文化功労者表彰に2氏

絵画、文芸で多大な貢献

文化庁の令和3年度の地域文化功労者表彰で、当協会の前理事長で名誉会員（絵画部）の大場尚文氏と、参事で文芸部運営委員の後藤文二（牛島富美二）氏が被表彰者に選ばれた。長年、芸術文化をはじめとする地域文化の振興に功績のあった個人や団体を文部科学大臣がたたえる名誉ある表彰。今回、宮城県関係で2個人、1団体が輝いた。大場氏は中国・上海生まれで富谷市在住。岩手大学を卒業後、宮城県内で教職に就き、教育行政にも従事。絵画部（洋画）



大場尚文氏



後藤文二氏

に所属し、平成30年6月まで2期、4年、理事長を務めた。この間、県文化芸術振興審議会委員なども歴任。洋画家として長年、優れた活動を重ねるとともに、役員として協会の活動をけん引し、地域文化の振興に貢献した。

大場氏は「思いもしない受賞に驚きましたが、ありがたく思います。心のリミッターを解除し、制作に取り組み、新たな『何か』をえぐり出したい」と、笑

みをたたえ今後の意欲を語った。

後藤氏は岩手県大東町（現一関市）出身で仙台市在住。東北大学を卒業後、教職に従事。文芸部に加わり、長年、活躍。「仙台文学」「県詩人会」などにも所属し、小説・随筆・詩・俳句・短歌と文芸の活動分野は幅広く、いまなお創作意欲は旺盛。文芸家として、特筆すべき活動を通じて地域文化の振興に貢献している。

後藤氏は「表彰に驚いています。携わっている『仙台文学』が7月に100号を刊行の予定で、喜びの二重奏のよう。励みになります」と、表彰に感謝しつつ、創作活動の継続を誓った。

定禅寺フォトコンテスト展 多彩に「定禅寺通」活写

第8回定禅寺フォトコンテスト展（宮城県文化振興財団、宮城県と当協会共催）が12月6〜12日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。

杜の都を象徴する定禅寺通を撮影の舞台に、祭りや景観などでその魅力を浮かび上がらせる公募展で、初冬の風物詩・光のページェントのあるこの時節恒例の写真展。今回は入賞・入選作44点（38名）が展示された。

コンテストは回を重ねるとともに、作者の被写体への迫り方や定禅寺通の魅せ方が多様

性を増した印象で、写真愛好家らの発想の豊かさに驚かされる。新型コロナウイルス禍で祭りの開催が影響を受け、撮影が制限される状況を巧みな着眼で乗り越えて、断面を大胆に鮮やかに切り取った正統派の作品にうつとりしつつ、ひねりを利かせた意表を突く革新的な作品に感心する。

師走のせわしさが増す中、訪れた市民らは、いずれ劣らぬ秀作を鑑賞。しばし、作品が描く定禅寺通の持つ幅の広さを実感し、その遺産的で時代とともに磨かれてゆく価値の再発見と、そうした宝と日常的に触れ合い、共にある幸せに浸っていた。

公益社団法人に移行し、今年は区切りの10年目。在籍10年を迎える会員の日々は、その歩みにピタリ重なる。協会の屋台骨を支える存在として、更なる活躍が期待される仲間から「年賀状」が届いた。年齢幅は広いが、意欲と覚悟が所感に感じ



「年賀状」

第1回公募展で受賞し、(そのご縁もあって)入会させていたが、絵を描き続けてきて、いつだき、10年目になりました。この年月、うれしいこと悲しいことなど、いろいろな出来事がありました。そう

描くことが支えに

絵画部(日本画) 阿部 淑子

「描きたい」という膨らむ夢を追って、楽しんでいきたいと思っています。

数年前からペン画で小品を制作しており、その中からイメージを膨らませて大作にし、宮城県芸術祭に出

心に残る絵目標に

絵画部(洋画) 大竹 幸子

品しています。現在、芸術祭は私の唯一の作品発表の場です。多様な発展を祈念しております。

今年も感性と個性を盛り込み、時代感覚を反映させた作品の制作が目標です。表現者と鑑賞者の交流が肝心

芸術の本質を追求

絵画部(洋画) 畑中 良一

で、作品発表が会員の会員による会員のためだけであってはならないの本質に迫りたいと思っています。

明けましておめでとうござい

自分の表現を貫く

彫刻部 庄司 了之介

ます。1年1年、休まずに出展し、気づけば10年。悩みの多い年もありますが、自身の表現を信じ、真摯に作品に向き合っていれば、見

明けましておめでとうござい。素晴らしい先生方、佳き書友に恵まれて充実した活動が出来ること。この2年間、種々制限され不安が増す中でも、「書」に向き合っている

柔軟な心で創作を

工芸部(木竹芸) 林 恵美子

ます。籐の持つしなやかで強く優しい素材に魅せられて籐工芸を続けています。東日本大震災の翌年、芸協に入会させていただき、当時は思

10年を振り返り思うことは、素晴らしい先生方、佳き書友に恵まれて充実した活動が出来ること。この2年間、種々制限され不安が増す中でも、「書」に向き合っている

楽しい書活動希求

書道部 小元 佳香

迎春。これまでの10年、師や諸先輩方に支えていただき、その交流を励みに進んでまいりました。しかし、この2年は顔を合わせることも減り、筆を執っても作品に何か

交流励みにまい進

書道部 後藤 翠蓮

多くの方々に支えられ入会10年目。皆さまに心から感謝いたします。野の花のひとつ、昔読んだ本の中のこの言葉に魅せられ、お花の世界に入って、古流松

季節の変化を享受

華道部(古流松籐会) 馬場 理哲

ます。コロナで悩ましい日々が続きますが、

む。過去、時代を画する出来事が相次いだ寅年。本年は優しい母虎を特徴とする「壬寅」で、厳冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージとか。目標に向かって虎視眈々、虎穴に入る覚悟で千里を走ろう。「トラ(寅)イ」を目指して。



の からの 員 会

節目の10年 誓い新たに

昨年も新型コロナウイルス感 染の影響を大きく受けた1年 でした。ただ一昨年は中止になっ た音楽コンクール本選、ガラコンサート、音楽会を十分な目配りの下、開催

音楽通じ心豊かに
洋楽部(運営委員) 青田 知子

することが出来ました。その時の演奏者、お客さま、スタッフの笑顔が忘れられませんが、今年も皆さまと共に、

新たな発想総動員
洋楽部 原田 博之

謹んで新春のお祝いを申し上げます。コロナ禍で厳しい状況が続く中、皆さま芸術活動に取り組んでおられると思います。各合唱団では、も新たな発想をフルに活用し、休止期間をはさみながらも、一

音楽の道をまい進
邦楽部(箏) 佐藤 亜美

迎春。入会10年を振り返り、何ができたのか、求める音に近づけたのか、特に、コロナ禍で満足のない活動が、できないこの2年、どんな足跡を残せたのか、自問自答をし

秋の県芸術祭で部の文学散歩 実行委員を務めています。今年 は川柳チームが企画・実施の担当。東北を中心、文学・文芸ゆかりの各地を巡る一泊二日のバスツアーが

文学散歩、思案中
文芸部(川柳) 水戸 一志

未来担う世代育成
舞踊部(理事) 若柳 梅京

新春のお慶びを申し上げます。芸術文化は困難な時代にあっても、私たちが日本人の心の支えであると思いが、何かと制約の多い昨今でしたが、全てを諦めるのではな

1日1日を丁寧に
茶道部(織田流煎茶道) 八島 南佳

新年明けましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。年明け後、新型コロナウイルスの変異株、オミクロン株が全国的に急拡大し、コ

写真の新世界創造
写真部(運営委員) 吾妻 克美

コロナ禍により、ほとんどを家で過ごした2年間でした。今年こそ、従来の活動ができる日々でありませう。写真の新世界を創つて、新しい年にしたいものです。

小野恬氏に河北文化賞 日本画界の発展に寄与

第71回(令和3年度)河北文化賞に小野恬(しづ)氏(絵画部、名誉会員)の受賞が決まり、発表された。受賞は7個人2団体で、1月17日に仙台国際ホテルで贈呈式が行われた。ただ、小野氏は体調面を考慮し、出席を見合わせた。

受賞理由は「多年にわたる日本画界の発展と文化芸術の向上への寄与」。母で日本画家

和の音色でつながる心の絆 皖山会・一音舎がコンサート

邦楽器による「音でつなぐ心の絆コンサート」(当協会後援)が1月16日、南三陸町のベイサイドアリーナ(文化交流ホール)で開かれた。深夜の津波観測でひやりとさせられたが、佐藤皖山執行理事が率いる皖山会・一音舎が主催し、宮城県の心の復興支援事業として実施した。

演奏は、邦楽の定番「春の海」のほか、「狂想曲さくら」「懐かしき四季の曲・二」など古謡、童謡、民謡変奏曲まで多彩。箏、三絃、尺八による芳醇な伝統の音色を響かせた。町内と塩釜市で行われたワークショップの成果発表の舞台も設けられ、参加

の故莊司福さんも受賞しており、母子での快挙。河北新報の紙面で小野氏は「内面の世界を描いてきただけ。思いもよらなかった」と謙遜しつつ、喜びを語った。

小野氏は仙台市生まれ。宮城一女高、東北文学部東洋美術史料卒。母の影響で日本画の世界に入り、20代半ばで河北美術展に初出品で入選し、院展の入賞も30回以上。三島学園女子大(現東北生活文化大)で長年、美術教育にも携わった。

者は「緊張の音色」を披露した。伝統を未来へ、地域を未来へ、心の絆が和の音色でしっかりとつながった。正月の雰囲気がかすかに残る中、町民ら入場者は伝統文化の風情を楽しんだ。

私達は芸術協会を応援します

新賛助会員

- ◇(団体) 株式会社仙北建設
- ◇代表取締役 高橋 克幸 様
- ◇(個人) 齋藤 裕子 様

事務局日誌

会務報告

- 【第2回部長会議】12月6日
- ・第58回宮城県芸術祭について(宮城県芸術祭実行委員会)
- 【第3回理事会】12月13日
- ・令和4年度事業計画及び予算編成の方針について

・理事候補者数の配分について
・賛助会員の推薦について

後援

- ☆東北書道新春選抜展
- 1月14日～19日
- せんだいメデアアテーク
- ☆一般社団法人宮城県華道連盟
- 第80回春のいけばな展
- 2月5日～8日
- せんだいメデアアテーク
- ☆第17回全国Dance Competition in Sendai 2022
- 2月19日～20日
- 日立システムズホール仙台
- ☆震災にもコロナにも負けないぞ！コンサート
- 3月6日
- つばめの杜ひだまりホール
- ☆第75回記念書道芸術院展役員巡回展・東北総局展
- 3月18日～23日
- せんだいメデアアテーク
- ☆第17回ALL NIPPON D.A.T.E.クラシックバレエコンペティション MYAGI
- 3月31日～4月2日
- 日立システムズホール仙台
- ☆第83回河北美術展
- 5月11日～17日
- T F Uギヤラリーミニモリ

会員の入賞・入選など

- ◇(協会に連絡があったもの)
- ◇第68回河北書道展
- ◇(第一部漢字)▽委嘱作家特別賞▽渡辺無象▽河北会友賞▽小元佳香▽河北賞▽櫻村遊雲
- ◇(第二部かな)▽河北会友賞▽藤井紫光▽会友秀逸賞▽委嘱作家特別賞▽荒川空華▽会友秀逸賞▽大庭幸石
- ◇(第四部近代詩文)▽委嘱作家特別賞▽建部絃子▽河北会友賞▽今野榮園▽会友秀逸賞▽鈴木千恵子
- ▽奨励賞▽宗像秀子

◇(第六部篆刻・刻字)▽委嘱作家特別賞▽田代明眸▽東北福祉大学賞▽品堀艸華

◇(第七部一行書)▽奨励賞▽畠中成山
◇改組新第8回日展
◇(第1科(日本画))▽入選▽桶谷光代
◇(第2科(洋画))▽入選▽佐藤幸子、原秀一、秀島美代子、村田洋子、志賀一男、渥美裕司、我妻宏也
◇(第3科(彫刻))▽入選▽八巻正弘
◇(第5科(書))▽入選▽小日向慶可、末永瑞鳳、菅原滄鳳
◇第55回女流陶芸公募展
▽入選▽新藤睦子

受贈書

◇(第10回東北川柳文学大賞「分母は海」(西恵美子)、「宮城の現代詩2021」(宮城県詩人会)、「現代うたかるた」(原田夏子))

訂正 2021宮城文芸年鑑に誤りがありました。162頁掲載の冬林橋の郵便番号と住所で、正しくは985-10835 多賀城市下馬5-11-6でした。おわびして訂正します。

謹弔

茶道部 (煎茶道三彩流)	星 清華 殿	9月16日
文芸部 (散文・小説)	安久澤連 殿	10月12日
文芸部 (詩、短歌)	山家常雄 殿	11月7日
書道部	嵯峨大拙 殿	11月12日
洋楽部	今井邦男 殿	11月22日
洋楽部	高木和男 殿	12月26日

けやきの譜

新型コロナウイルスの変異株オミクロン株が、1月に入って急速に拡大しています。第6波に伴う「まん延防止」、さらには「緊急事態」の発令も想定され得る状況で、不安な日々が続いています▼世の中の不平等が目に見える形で現れている子ども食堂は、日本全国で6000カ所を超えているといえます。子どもが満足に毎日の食事すらできない、発展途上の国々の話ではなく、この日本においてです。「政治の貧困」を思わずにはおられません▼こうした日常の中で、1人宇宙へ50億円を払って出掛けて行くのも、自分のお金だから自由でしょうが、私にはどこか狂っているように見えます。マスコミがこれを見えぬ。いちいち報道するのも、あまりに下卑ていて節操がないように思えます▼かつて「金で買えないものは無い」と啖呵を切ったご仁が今、北海道でロケットを飛ばしていることを思い出しました。さてさて、ルイ・アームストロングが歌う『What a wonderful world』が実現するのはいつのことでしょうか。(英)